

## 社会人約六十名が授業に参画 一対一の対話・いきはたトーク

令和六年十二月九日、丘中学校で「いきはたトーク」が開催された。対象は、進路選択を翌年に控えた二年生一四五名。親や先生などの「タテの関係」、同級生などの「ヨコの関係」ではない、「ナナメの関係」である人生の先輩（地域の社会人・大学生・高校生）と中学生が一対一で対話をするプログラム。生徒は当日を迎えるまでに、職場体験等で働く意義を考えたり、今までの人生を振り返ったりするなどの事前学習を行い、学びを深めてきた。先輩方は傾聴について学び、自身の人生を振り返る等、二時間にわたる事前研修を受けて臨んだ。



## 「人生で一度はあってほしい すごくいい機会だった」

今悩んでいることや考えていることを、終始笑顔で聞いてくれて嬉しかったし、学びも多かった。先輩と話して、どんなときもポジティブに乗り越えていきたいと思った。



生徒の声  
一例

一言で言うと人生で一度はあって欲しいすごくいい機会だった。自分で考えてもどうすればいいのか分からなかった答えが見つかる瞬間があった。



生徒の声  
一例

普段悩みを抱えていてなかなか言えなかった生徒が自分の悩みを話せたりと、良い機会になった。参加された先輩方がしっかりと話を聴いてくださったので、一対一でも生徒が安心して話せていた。生徒のいい笑顔が見れた。



丘中学校  
二年主任  
久保先生

## 捨てたもんじやない塩尻

いきはたトークには六十名もの協力が市内から集まった。塩尻市商工課キャリア教育コーディネーターの宮川さんは、五月からキャリア教育参事業所開拓に奔走しており、その中から業種に偏りがないよう配慮しながら依頼をかけた。その殆どの事業所で快諾をもらうことができたという。集まった人数に「捨てたもんじやない塩尻」をいうお声もいただいた。

協力の事後アンケートでは、九割近くが参加に満足しており、自身の成長にもつながったと回答。生徒のみならず、働く大人にも役立つキャリア教育プログラムとなった。

## 共創共学プラットフォーム

塩尻市では、令和六年度を始期とする「第六次塩尻市総合計画」及び「第二次塩尻市教育振興基本計画」に基づき、学校と地域・産業界・行政など多様な主体が連携をしながらキャリア教育を推進している。その中で、本年度より「共創共学プラットフォーム」と称した仕組みを新たに構築した。主な役割は①各学校のキャリア教育プログラムに対する支援②キャリア教育関係団体間の連携促進の二つ。学校からの相談に対し、授業設計段階から伴走支援をしたり、新たな連携先を紹介したりしている。また、月に一度、それぞれの担当者（メンバー）が集まり、共通理解を図ったり、各学校の支援状況を共有したりする定例会議を開催している。（メンバーは次号以降で紹介予定）

この体制により今まで実施しなかったけれど、学校や教職員だけではできなかったキャリア教育も実現できている。

## コラム：キャリア教育に関わって

そもそもキャリア教育とは何か。文科省では「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義している。また、キャリア発達とは「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」と定義されていることから、キャリア教育は子どもの自己実現・自己確立を目指した教育ともいえる。

今号をきっかけに、VUCAと言われる時代の中で生きる私たち社会人も次の問いについて再考してみてもどうだろうか。

- ①私は何者なのか
- ②私のいきがいは何か
- ③私の働きがいは何か

# キャリア教育新聞

No.2

2025年3月  
発行

共創共学  
プラットフォーム  
(塩尻市教育委員会委託事業)

## 塩尻西部中学校の三年生が より良い塩尻市の未来を考える

塩尻西部中学校三年生は総合的な学習の時間で「ふるさと学」CFO（未来最高責任者）と称し、理想の塩尻市について考える学習をしている。それぞれの分野（子育て・教育、観光、福祉、まちづくりなど）に分かれて、塩尻市総合計画を読み解き、市の様々な課題に対して中学生の独自の視点や発想で提言を考える。今年度は中間発表を設け、市役所の担当者を学校に招き、発表に対してフィードバックをもらった。令和六年十一月一日には、「COMISUKU festa2024」で最終的な考察を先輩や保護者、地域の方々、市長や教育長などに提案した。

## 未来をつくるのは自分たち 学校での学びを社会と繋げる

塩尻市ではこども家庭庁が掲げる「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、「こどもまんなか応援サポート宣言」を行っている。市役所職員が授業に参画することで、こどもの意見を聴くという市が進めるこどもまんなかアクションに繋がっている。

中間発表には塩尻市役所から各分野の担当者計八名が参加した。産業の分野を担当した商工課の池田さんは次のように感想を述べた。「何気なく暮らしている地域に知らないことが溢れていると生徒が気づいたことに感心した。生徒が今後の生活で生じる『なぜ？なに？』という疑問を解消するために今回の授業の経験が活かされればと思う。また、自身もこの授業をきっかけに子どもたちに『また塩尻のことを調べたい。調べたら塩尻は希望のもてる街だ。』と思ってもらえるように努力したい。」



生徒の提言の一例

有名な特産物であるぶどうやレタスだけではなく、そばサラダやロールおはぎなどのあまり知られていない伝統料理に焦点を当て、PRしていくという方法が良いと思います！



生徒の提言の一例

高齢者も住みやすいまちにするには、移動料金を無償化するなど市役所が担うことと中学生にでもできることは中学生が行っていくことが必要であると考えます！



塩尻西部  
中学校  
三年生  
中野先生

今年は生徒の提言が具体的でより深いものになるよう、中間発表を設定しました。市役所の担当者から直接フィードバックをもらうことで、新たな視点を得て、再考するグループが多く見られました。

## 日本商工会議所で事例発表を実施！

「キャリア教育×地域共創 未来と地域定着につなげる新たな地域愛醸成のアプローチ」と題し、日本商工会議所合同委員会にて事例発表をしました。子どもたちが自ら考え、自ら行動して結果を出す、一連の活動をサポートする点が評価されたのだと思います。キャリア教育を通じ、地域愛と自己理解を育み、地域と次世代をつないでいけたらと思います。「人の力」の充実・強化に寄与し、未来の社会を担う若者たちの成長を後押しする「地域の力」向上の一助となる活動を引き続き行っていきます。



塩尻商工会議所  
谷田部 和良

塩尻商工会議所中  
小企業相談所経営  
指導員の谷田部和良  
です。小規模事業者  
に寄り添い、事業者  
のお金周りの相談、  
創業支援、補助金、

販路開拓など幅広い支援をしています。事業者の立場で共に悩み考え、「谷田部に言えば」と信頼される存在を目指し、日々全力で取り組んでいます。事業者の人材確保という文脈でキャリア教育に力を入れるようになり、手探りですがサポートさせていただいている中で、「若者の地域愛を育てること」という大義が見えてきた気がしています。

共創共学プラットフォームメンバー紹介

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局（NPO法人MEGURU）  
塩尻市教育委員会事務局学校教育課（0263-52-0280）